

夏の次は、冬？そして、また夏??季節の変わり目の過ごした方がとても難しいと思う昨今です。

## 自然とそんな人に近づく

9月当初、あきらさん(参照:[学校通信 No22 品格の育ち](#))から始まった運動場の草引きは、最後は総勢50名を超える仲間と一緒にいったんフィナーレを迎えました。夏休み明けの生い茂ったグラウンドを、ここまできれいにしてくれたあきらさんをはじめとする5、6年中心のボランティア諸君に、心から感謝したいと思います。

すごく素敵な時間でした。

たった一人の活動が二人になり、三人になる。そして、友が友を呼び人数が増えていく。もちろん、グラウンドをきれいにするためにやっているんだけど、その目的が何だか薄れていくような雰囲気生まれてきます。あんな素敵なことができる人になりたいという、あこがれが広がり、なんだかみんな“似ている”感じがしてきました。



唐突ですが、ミラーニューロンという神経細胞が発見されたのは、ついこの間の1996年だそうです。この神経細胞ミラーニューロンは、21世紀初頭において非常に重要な神経科学における発見の一つといわれています。

なんで?

門外漢の私が聞きかじりで説明するのは恐縮ですが、このミラーニューロン、他の個体の行動を見ているだけで、まるで自分自身が同じ行動をとっているかのような反応を示す神経細胞だそうです。そう、見ている人の“鏡(ミラー)”のような反応を示すことから、ミラーニューロンと名付けられたとのこと。

そして、決定的に重要なのは、ミラーニューロンは他人がしていることを見て我がこのように感じる共感(エンパシー)能力を司っていると考えられていることです。

榆木小は、「なりたい自分になる」学校。それぞれが、なりたい自分を見定め、失敗と努力を重ね、たまには息抜きもしながら確実に歩み続ける。代表的なお手本が、メジャーリーガーの大谷翔平さん。有名な曼荼羅チャートの中心には、明確な目標が。だから、明確な取り組みが設定され、自身の歩む道が具体的に浮かびあがっていました。預言書のような今期の大活躍には、ファンならずとも多くの人々の心を震えさせたことでしょう。

とはいえ、自分のなりたい姿≡夢を見定めること自体が、実はとても難しいと、凡人の私は思うのです。夢をもて!とか言われても、簡単に夢がもてない。苦しい。もやもやする。そんな思いをもつ人も、けっこういるんじゃないかな。実は、私も明確な夢をもてたのは40を超えたころだった。それまで、こうなりたいとか、ああしたいなど、明確なものがなかったような気がします。たくさんのお会いの中で、自然といいなあ~と思う方へ近づき、じっくりくるまで真似してみて、いい気持ちになる。言葉にならないこのような感覚は、もしかしたら私の中のミラーニューロンが自発的に働いていたのかもしれない。

だから、いいと思う人ものコトに惹かれ、素直に受け入れるって、大切なことだよな。あきらさんと、そしてそこに集った榆木っ子たちと一緒に過ごした心地よい空気感を肌で感じながら、そんなことを思いました。そこは、多分、共感(エンパシー)がたゆたう、穏やかで互いを尊敬する空気が流れる、「みんな」なりたい自分になる空間だったのでしょうか。